

こどもミュージアム 2020
ミギシ家のマリオネット ～ジャイアントステップスの夏まつり～
<開催結果報告>

「こどもミュージアム」は、夏休み期間に子どもたちに美術館に親しんでもらうことを目的に、毎年テーマや講師をかえて実施している教育普及プログラムです。

2020 年度は巨大傀儡パフォーマンス集団^{くぐつ}GIANT STEPS^{ジャイアント ステップス}を総合演出に迎え、『ミギシ家のマリオネット』と題して開催しました。

【事業名】 こどもミュージアム 2020
ミギシ家のマリオネット ～ジャイアントステップスの夏まつり～

【開催期間】 2020 年 7 月 18 日(土)～8 月 30 日(日) 44 日間（開館 38 日間）

【来場者数】 延べ 2,698 人（うち中学生以下 1,075 人）

【内容および参加者数等】

- ①クイズ&スタンプラリー「マリオネットと友だちになろう！」 約 600 人
- ②アートツール「ペーパークラフトのマリオネットをつくろう！」 約 600 人
- ③ワークショップ「尾州のテキスタイルを使ってマリオネットをつくろう！」
145 人（うち受講者 39 人）
- ④三岸節子記念美術館×尾西金蝶堂コラボ和菓子
くずまんじゅう「くぐつまんじゅう」 355 個
- ⑤傀儡展示、傀儡体験、傀儡パフォーマンス 延べ 1,103 人

【総合演出】 GIANT STEPS（ジャイアントステップス）



摩訶不思議な巨大傀儡（操り人形）集団。背中に背負って操作する骸骨や化け鳥、8 人がかりで息を合わせて動かす青龍など、大きな人形が中心だが、骨の精霊など中型の人形や、河童、鬼、骨などの小さな人形も操る。人形はすべて手作りで、「こんな仲間がいるといいなあ」という思いで作っている。材料には使われなくなったペットボトルや発泡スチロールなど廃材を利用。「ナンジャコレ！」と観る人の心をざわめかすことを旗印に、音楽イベント、人形劇、フェス、お祭りに、全国津々浦々で活動中。2019 年は「あいちトリエンナーレ 2019 豊田会場オープニングイベント」はじめ全国各地で計 36 回公演。

はじめに

愛知県一宮市出身の三岸節子（1905-1999）と、北海道札幌市出身の三岸好太郎（1903-1934）。2人は1922年に東京で出会い、1924年に結婚、3人の子どもをもうけました。貧しい暮らしではありましたが、ロマンチストの好太郎は新聞紙と小麦粉を煮詰めて人形の顔を作り、庭のアカシアの木の下に舞台をしつらえ、自作自演のマリオネット劇で子どもたちを喜ばせていました。人形の衣装は節子がありあわせの布を裁縫して作ったそうです。

性格も画風も対照的な2人ですが、異国情緒あふれるマリオネットは両者にとって画題の対象でもあり、1930年に両者とも《マリオネット》と題した作品を発表しています。



左) 三岸好太郎《マリオネット》1930年
北海道立三岸好太郎美術館蔵
右) 三岸節子《マリオネット》1930年
所在不明

しかしながら1934年、好太郎は胃潰瘍により31歳の若さで急逝します。以後、三岸家で人形劇が見られることはありませんでした。

『ミギシ家のマリオネット』は、このような三岸家の史実から着想を得

ています。巨大傀儡集団 GIANT STEPS を総合演出に迎え、好太郎の死後、ミギシ家の蔵（当館の土蔵展示室）で眠りについたマリオネットが、約100年のときを経て GIANT STEPS の傀儡たちとして美術館に甦りました。100年も経てば、なかには妖怪になったマリオネットや骸骨になったマリオネットもいるでしょう。見た目はおどろおどろしいですが、どれも好太郎と節子が子どもたちのために愛情をこめて作った、大切な友だちばかりです。



上記の好太郎・節子作品をモチーフに、「こどもミュージアム 2020 ミギシ家のマリオネット」に合わせて制作したマリオネット
(※GIANT STEPS の傀儡ではありません)



①クイズ&スタンプラリー「マリオネットと友だちになろう！」

館内のいろんなところに潜むマリオネットたちを見つけて、友だちになった証にスタンプを押していくクイズ&スタンプラリー。チェックポイントは5ヶ所で、うち3ヶ所はGIANT STEPSの傀儡、残り2ヶ所は常設展示室の三岸節子作品となっています。節子作品の中に入り込んだマリオネットを探し、じっくり観察することにより、楽しみながら節子作品を鑑賞する機会を提供しました。



GIANT STEPSの傀儡たちには一体一体に名前がつけられています
左から「ひとつ目デイビット」「バード Jr.」「幽霊船に乗る参汰朗」

②アートツール「ペーパークラフトのマリオネットをつくろう！」

ロビーに設置した自由体験型のクラフトコーナー。台紙に顔や服などを描き込み、風糸や割り箸、割り鋏を使ってペーパークラフトのマリオネットを組み立てました。できあがったマリオネットを使って、館内のいたるところで楽しげ・怪しげな操り人形劇場が繰り広げられていました。



③ワークショップ

「尾州のテキスタイルを使ってマリオネットをつくろう！」

ギリヤッコ・Aさん（GIANT STEPS）を講師に、尾州の布や糸、発泡スチロールなどの廃材を使って、自分だけの操り人形をつくりました。

はじめにギリヤッコ・Aさんオリジナルの「くぐつたいそう」でストレッチ。体も頭もほぐれたら、思い思いのマリオネットを創作していきます。完成したら GIANT STEPS の巨大傀儡と一緒に全員でロビーをパレード。堂々と練り歩く姿が印象的でした。



④三岸節子記念美術館×尾西金蝶堂コラボ和菓子

くずまんじゅう「くぐつまんじゅう」

味覚でも「ミギシ家のマリオネット」を楽しんでいただこうと、尾西金蝶堂さんのご協力のもと、GIANT STEPS の巨大傀儡をモチーフにした葛饅頭「くぐつまんじゅう」を当館喫茶コーナーにて販売しました。

ひとつひとつ表情が異なり、「ガイコツなのに愛らしい」と大人気。もちろんお味は老舗和菓子店の保証つき。午前中に売り切れてしまうこともありました。



⑤ 傀儡展示、傀儡体験、傀儡パフォーマンス

毎年、全国津々浦々を巡りパフォーマンスを披露している GIANT STEPS。とくに夏場は毎週のように各地のお祭りや音楽イベントなどに出演しています。ところが2020年は新型コロナウイルスの影響により、そういったイベントがすべて中止になってしまったそうです。

しかしながらそのおかげで、ふだんならメンバーとともに全国各地を巡っているはずの GIANT STEPS の大小さまざまな傀儡たちが、当館に集結することができました。傀儡展示室には毎週のように新しい仲間たちが増えていき、気づけば50体を超える傀儡が並んでいました。GIANT STEPS のメンバーも毎週のように美術館を訪れ、操り人形体験教室を開催してくれました。

そして GIANT STEPS といえば、やはり巨大傀儡パフォーマンス。大規模なパフォーマンスは避け、その日集まったメンバーで、そのとき集まったお客さんの人数を見ながら、できる範囲のパフォーマンスを披露してくれました。コロナ禍だからこそ、ミギシ家のマリオネットたちが伝えたかった家族の絆、命の尊さ、ものを大切にする気持ち。みなさまにも感じていただけたでしょうか。(学芸員 長岡昌夫)

